



ベルギーのサポートグループ Donor Families

Interviewee
David

Q. このサイトとグループの活動について簡単に教えてください。

Donor Families は、donor-conception による子どもを持つ親のためのグループで、2013 年に設立された。ベルギーには、対面のサポートグループはそれまで存在していなかった。匿名のオンラインコミュニティはあったが、実際に連絡を取り合うことは容易ではなかった。Dr. Astrid Indekeu の研究に参加したことが、このグループ結成のきっかけになった(英国の Donor Conception Network は、不妊治療の専門家の支援を受けた親によって開始された。Donor Families の設立の経緯とは違っている)。当初のメンバーは 4 名から出発した。

Donor families は、ボランティアで運営している。すでに親になった人だけでなく、これから家族を作ることを検討している人たちのサポートをしている。

COVID-19 以前には、“family day” と称して、メンバー同士の交流会を開いていた。この交流の目的は、通常の方法では家族を作ることが不可能な人たちの困難な状況を和らげるのに役立っていると思う。参加者からはポジティブな反応をもらっている。

また、年間を通して、専門家を招いて、当事者が有益な情報を得ることができるようイベントを開催している。す

で親になった人たちとこれから親になろうとする人たちの交流会として、リビングで話すようにリラックスした環境で質問してアドバイスをもらったり、色々な情報を交換したりできるような機会も設けている。グループ内でのメールでのやり取りも可能だ。

Q. 精子提供だけでなく、卵子提供や代理出産の親も対象にしていますか？

精子提供だけでなく、卵子提供や受精卵提供の場合でもグループのメンバーになれる。ただし代理出産に関してはベルギーでは法的には不透明な状況だ。今まで代理出産の親からコンタクトはなく、メンバーもいない。

これまでのメンバーは異性カップルとシングルマザーだけだが、ゲイやレズビアンのカップルも大歓迎だ。まだ一組も参加していないが。

Q. 子どもへの告知についてはどのような考えですか？

ベルギーでは、ほとんどの配偶子提供が匿名で行われている。例外は、親族や知人に提供を依頼できる場合だ。そういうケースでは、ドナーは非匿名になる。ベルギーの匿名ドナーはとても厳格で、ドナーもレシピエントもお互いの情報を全く知ることができない。

自分と妻が約 15 年前に提供を受けたとき、donor-conception はコミュニティでほとんど知られておらず、メディアで取りあげられることもなかった。クリニックでは、何ができるかについての幅広い選択肢を提供してくれなかった。ただ、匿名の精子ドナーの使用が、自分たちの問題の解決策となるとだけ言われた。当時は選択の余地はなく、自分も何が適切か



わかっていなかった。当時は匿名性について、悪くはない選択だと感じていた。当時、精子提供に関する情報はほとんどなく、匿名は法律で決められたことだった(それ以外の選択肢はなかった)。デンマークの精子バンクと交流があるクリニックが Flemish にもあり、情報をオープンにしているドナーもいるということを知ったのは、もっと後のことだった。

Donor Families では、匿名性についてあまり詳しくサイトに載せていない。それは、依頼者がより柔軟に選択できるようにとの配慮から。ベルギーでは、配偶子提供について、5、6年前に法律の改正について審議がなされたが、結局は何も変わらなかった。

最近ベルギーでは政府がデータバンクを始め、養子やドナー提供による子供たちが DNA を提出して実の親を見つける可能性がでてきた。これは 10 年ほど前からオランダで存在しているモデルと同じものだ。

Q. ベルギーでは、匿名ドナーについて、親はどの範囲の情報をもらえますか？

依頼親に対して、匿名ドナーのいかなる情報も提供されることはない。クリニックによっては、特定の身体的特徴とマッチさせることもあるが、どのような身体的特徴を用いたかを知らせることも法律違反となる。

Q. ベルギーでは、匿名ドナーか非匿名ドナーかを選ぶことができますが、どのようなことを考慮して親は決めますか？

ドナーを見つけることが難しく、匿名か非匿名か、現実的に選ぶことは難しい。卵子提供の場合はドナーの身元を知ることが可能な場合もある。知人をドナーとす

ること結構あるから。詳しくはわからないが、Cross-donation と呼ばれる方法が使われることもある。それ以外にも、海外から精子や卵子を輸入するやり方が使われている場合もあると聞いたが、法的にはグレーだ。

Q. 匿名、非匿名かを親が決めなければならないことについて、プレッシャーはないでしょうか？

現時点では、匿名ドナーがほとんど唯一の方法だが、依頼親に対して提供される情報は、今はかなり良くなった。

提供は匿名だが、クリニックはドナーと子供をリンクする情報を持っている。ドナーに用紙を渡し、そこに自分の情報を記入して、ドナーファイルにつけるオプションを提供しているクリニックもあるくらいだ。

これにより、将来的に法律が変更された場合、子供がより多くの情報にアクセスできる可能性がある。しかし、これが可能かどうか、そしていつ起こるかは誰にもわからない

Q. Donor conception における子供の最善の利益とは何でしょうか？

自分は、匿名性は完全に廃止されるべきだと考えている。子供にとって、自分が誰かを知るため、他の子どもたち自分は何が違うかを親に聞くのは当然だと思う。

自分と妻は、家族がどのように作られたかについて、子供たちには完全にオープンにしてきた。子供たちはたくさん質問してくる。何かを隠しているのは不自然だ。そうは言っても、自然に妊娠できないカップルが、匿名性について事前に深く考えることはあまりない。親にとっ



て、まだほんの赤ん坊のステージを過ぎて、子供が自分のアイデンティティに疑問を持ち始めるようになるのを前もって想像するのは難しいから。

Q. ベルギーの親の告知に対する態度は？

状況はどんどん変化している。Dr. Astrid Indekeu はこのトピックについて本を執筆し、将来の親には、家族がどのように形成されたか、子どもにオープンにするようアドバイスしている。Donor Families でも販売しているし、人気がある。依頼親にこれを読むように推薦しているクリニックもある。

ベルギーの依頼親がどのように考えているかはわからない。Donor families は、すでにオープンな考えを持つ勇氣ある親たちを惹きつけるかもしれないが、オープンにすることに對して疑問を持つ人たちは、おそらく連絡してこないだろう。

Donor Families は、PR のためにいくつかのクリニックを訪問した(何人かのカウンセラーはすでに私たちのグループを紹介してくれていた)。医師は我々のサービスにあまり寛容ではないようだ。多くの場合、匿名性に関するグループの立場について尋ねてくるが、それによって医師らは、このグループの目的に賛同しないことを暗にほめかしている。医師とのコミュニケーションは難しいが、徐々に変化しているのを感じる。一部の医師は、患者に秘密を推奨していた過去の過ちを認めてすらいる。

Q. 最近、告知を勧める考え方が非常に強くなっています。告知しない親は、サポートを受けるのが難しいという問題はありますか？

Donor families は、オープンな考えを持ち、告知することをためらわない家族だけにフォーカスする嫌いがある。告知しないことを選択した人々も歓迎するが、グループからのアドバイスが子供に伝えることであるため、彼らから嫌煙されるだろう。

Q. もし、小さい時から告知していれば、子供がドナーや代理母にそれほど強い愛着を抱くことはないと思いますか？

自分の考えでは、早めに告知したとしても、ドナーに対する興味が変化することはないと思う。子供が大きくなってから伝えられると、育ての親との関係に与える影響ははるかに大きくなる傾向があり、信頼関係が崩れることはあるだろう。

ベルギーには、ネガティブな方法(両親が離婚したなど)で自分がドナーから生まれた子供だと知った人々によってつくられたグループがある。これらの人々はその事実に苦悩し、怒りを感じる傾向がある。そして、それらの人々の中には、第三者生殖を利用することに反対する人がいるのも知っている。こういう考え方が出てくるのは、匿名だったことに関係していると思う。

自分は子供たちに対しては非常にオープンに接していて、全て話している。すべての質問に答えられないかもしれないが、子どもたちの疑問にきちんと向き合い、避けるようなことはしない。

Q. 遺伝的繋がりについて、どう思いますか？ 実際に子育てをしていて、どのように感じますか？

これは、生まれか、育ちかというとても難しい問題に関わっていると思う。家



族や友人とは遺伝の問題について議論しない。他の親が「そこは私に似ている」などと子供について言っているのを聞くと、少しだけ心に刺さるものがある。遺伝は重要であるとは思いますが、絶えずそのことが頭にあるというわけではない。

Q. ドナーやドナーの家族、同じドナーからのきょうだい、代理母との交流については、どう思いますか？

こういう状況を想像するのが難しい。なぜなら現在のベルギーの法律では完全な匿名性が義務付けられているから。もし子供たちがドナーを探したいといえれば子供たちをサポートするつもり。しかし、そうするならば、そのプロセスはきちんと専門家からサポートしてもらいたい。ベルギーの厳しい匿名性のせいで、ドナーの側の気持ち、交流可能性は、ドナーをオープンにしている国とは異なる可能性が高い。

それでも、オンラインでの DNA 検査サービスがあるため、今日では匿名性ほとんど不可能なことだ。多くの人が自分の DNA を提出すれば、どこかの時点で匿名性が完全に失われるだろう。自分はその時のために心の準備をしておくべきだと考えている。

Q. ドナーはどのような存在ですか？ 会ってみたいと思いますか？

匿名だったので、自分にとってドナーは実在しているようには感じられない。

Q. オーストラリアのビクトリア州やイギリスのように、匿名性を廃止して、政府がドナー情報を管理するシステムについてどう思いますか？

それがいい。最も嘘のない方法だと思う。オランダでも同様のシステムが導入されている。しかし、ベルギーでは、クリニックと医師はこれに強く反対している。

Q. 遺伝子検査を受ける人が増えています。どのように捉えていますか？

子供が望むのなら、このようなサービスを利用することをサポートする。しかし、どちらかといえば公的機関の DNA データバンクを使用してもらいたい。オランダにベルギーの人も利用できるサービスがある。双方の当事者に配慮でき、うまく対応してくれる公的機関によるサポートを受けるのがいいと思う。

Q. どのような法律やルール作り、当事者への支援が必要でしょうか？

イギリスとオランダで実施されているようなものが良いと思う。例えば、匿名性の完全な廃止など。親がより多くの情報にアクセスできるようにするため、オープンにできるファイルをつくるのも選択肢の一つかもしれない。最も重要なことは、子供が開示を希望すれば、子供にきちんとしたガイダンスを提供し、その後でドナー情報を提供することだ。プロフィールが親に対して完全にオープンにされるか、一部だけオープンにされるべきか、どちらがいいか自分には判断できない。

Q. ヨーロッパ内で移動して生殖補助医療を受けることは一般的ですか？ 統一したルール作りは必要ですか？

国境を越えるのが一般的かどうかわからない。しかし、Donor Families は過去にス



ペインの組織から連絡を受けたことがある。また、英国とロシアのサンクトペテルブルクに行った人を知っている。Donor Families は、ビジネス色が強いサービスを利用することには賛成ではない。

ベルギーでは、精子ドナーも卵子ドナーも補償金を受け取っている。その額は卵子ドナーの方が多い。しかし、それでも提供は無償のものだと考えられている。体外受精を行う施設は大きな病院の中にあるのが普通なので、ビジネス色はあまりないと思う。他の国ではもっとビジネス的に行われているケースもある。

子供を持つことが「権利」であるかどうかについてはこれまで議論されてきた。親ではなく子供たち自身に焦点を当てるべきだと考えている。我々の社会は、子供を持つために非常に多くの手段を与えていると思う。それらの手段をどこまで許容するかについては議論があるだろう。

(2021年5月)

Donor Families

2013年に発足した、ベルギーではまだ珍しい自助グループの一つ。子どもを持つ親たちに交流の機会を設けたり、これから親になろうとする人たちにアドバイスをしている。ドナーやドナーきょうだいを見つけるサポートもしている。

David

匿名の精子提供で3人の子ども(息子が1人、娘が2人)持った父親。Dr. Astrid Indekeuと出会い、Donor Familiesを設立、中心メンバーとして活動している。親たちからの相談・質問に自身の経験を踏まえて回答している。

プロフィールは [Link](#)

